

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 110 ~ 111 円台で堅調な推移か

[6月28日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月21日~6月25日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	110.24	111.12(24)	109.72(21)	110.80	+0.59
ユーロ・ドル	1.1883	1.1970(23)	1.1848(21)	1.1947	+0.0083

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	29,066.18	+102.10	日本10年債利回り	0.052	-0.007
ダウ平均株価	34,196.82	+906.74	米10年債利回り	1.492	+0.054

=====

<来週の主要経済統計等>

- 28日 英6月ネーションワイド住宅価格
- 29日 日本5月雇用統計、日本5月有効求人倍率
 - 日本5月小売業販売額
 - 独6月消費者物価指数
 - 米4月住宅価格指数、米4月S & Pケースラー住宅価格指数
 - 米6月消費者信頼感指数
- 30日 日本5月鉱工業生産指数速報値
 - 中国6月製造業購買担当景気指数
 - 英第1四半期国内総生産 (GDP) 確報値
 - スイス6月KOF先行指数
 - 独6月雇用統計
 - ユーロ圏6月消費者物価指数速報値
 - 米6月ADP雇用統計
 - カナダ5月鉱工業製品価格
 - 米6月シカゴ購買部協会景気指数
- 1日 日銀短観 (6月調査)
 - 豪5月貿易収支
 - 中国6月財新製造業購買担当景気指数
 - スイス6月消費者物価指数、スイス5月小売売上高
 - ユーロ圏5月雇用統計
 - 米新規失業保険申請件数
 - 米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出
 - 石油輸出国機構 (OPEC) 総会、OPECプラス閣僚級会合
 - 中国共産党創建100周年記念日
- 2日 ユーロ圏5月生産者物価指数
 - カナダ5月貿易収支
 - 米6月雇用統計、米5月貿易収支
 - 米5月製造業新規受注、米5月耐久財受注確報値

【前回のレビュー】量的緩和の縮小 (テーパリング) や利上げに向けて、今までよりも一歩踏み込んだ今回のFOMCを受けて、米長期金利は緩やかに上昇していく展開とみられる。今後は経済指標の動向に左右されやすい流れが見込まれるものの、ドル円は110円台を中心に底堅い展開が見込まれるとした。

【ドル円は111円台に一時乗せる】

15~16日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) で、FOMC参加者による物価見

通しや経済成長率見通しは上方修正された。政策金利見通しを示すドットチャートでは、2023年の利上げを見込む参加者の数が前回の7人から13人と2倍近くに増え、政策金利の中央値は0.625%となり、従来の0.125%から大きく切り上がった。前回（3月時点）では、2023年末まで政策金利は据え置きとの見通しかから、2023年末までに2回の利上げという見通しとなった。

FOMCメンバーからタカ派的な発言が数多く聞かれるようになり、米連邦準備制度理事会（FRB）は市場の想定以上のタカ派的なスタンスに傾いているとの見方が広がった。21日にはハト派として知られるブラド・セントルイス連銀総裁は、「FRBは上方向のインフレリスクに備える必要」「資産購入ペース縮小の議論開始は適切」との見解を示した。

カプラン・ダラス連銀総裁も21日に「需要は非常に力強く、米国は供給の制約に直面」「量的緩和を続けると、資産価格の高騰を招く」「住宅市場にとって、FRBによる住宅ローン担保証券（MBS）の月額400億ドルの購入が必要かは疑問」「資産購入ペース縮小のプロセス開始は遅いよりも早い方が望ましい」と述べた。

22日のパウエル議長の議会証言では、「経済状況は改善を示しているものの、リスクは残る」「ワクチン接種が進展して、新型コロナウイルスの影響が緩和すれば、今後数か月で雇用は増加する」「物価はここ数か月で大きく上昇」「物価の上昇は前年に低迷した反動と供給面の制約による一時的なもの」との見解を示した。また、「予防的に利上げすることはない」と述べた。

このところの米10年債利回りは1.46～1.50%前後で小動きとなっている。23日にバイデン大統領がインフラ投資計画で超党派の上院議員らと合意したと伝わったことで、米国株は上昇した。NYダウは322ドル高、ナスダックとS&P500は最高値を更新した。ただ、米長期金利は落ち着いた動きとなり、米10年債利回りは1.49%台での推移となった。

ドル円は21日のアジア時間に一時109.72まで下落したものの、その後は110円台を回復した。110円回復後は上下に振幅しながら上値を伸ばす展開となり、23日には111.10付近まで、24日にも111.12付近まで上昇した。その後は111円の手前で堅調な推移を見せている。的緩和の縮小（テーパリング）の前倒し観測もあり、ドルは底堅く推移するとみられる。

6月28日の週は30日の米6月ADP雇用統計、1日の米6月ISM製造業景況指数、2日の米6月雇用統計など注目度の高い経済指標の発表がある。こうした経済指標が良好な結果となった場合、ドル円は110～111円台で堅調な推移となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、109.75～112.25円。

上記以外の今後の日米の経済指標やイベントとしては、29日に日本5月雇用統計、日本5月有効求人倍率、日本5月小売業販売額、米4月住宅価格指数、米4月S&Pケースシラー住宅価格指数、米6月消費者信頼感指数、30日に日本5月鉱工業生産指数速報値、米6月シカゴ購買部協会景気指数、1日に日銀短観（6月調査）、米新規失業保険申請件数、米5月建設支出、2日に米5月貿易収支、米5月製造業新規受注、米5月耐久財受注確報値などがある。

【ユーロドルはもみ合いが継続か】

ユーロドルは18日にかけて大きく値を崩した。1.2000ドルの節目や1.1900ドルの節目などを割り込み、1.18台半ばまで下落した。その後は急落の反動から下げ渋りを見せている。ただ、1.20ドル接近では上値を抑えられやすくなっている。

23日にはドイツ、ユーロ圏の6月の製造業、非製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値が発表され、おおむね事前予想や前回を上回る良好な結果となった。ただ、米長期金利の上昇もあって、ユーロドルは1.19台後半では伸び悩みを見せた。ユーロ圏の景気は回復基調を続けてユーロの支援材料となるものの、ドルも堅調な動きが見込まれ、ユーロドルはもみ合いが継続するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジ

は1. 1800～1. 2050ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、29日に独6月消費者物価指数、30日に中国6月製造業購買担当景気指数、英第1四半期国内総生産（GDP）確報値、スイス6月KOF先行指数、独6月雇用統計、ユーロ圏6月消費者物価指数速報値、カナダ5月鉱工業製品価格、1日に豪5月貿易収支、中国6月財新製造業購買担当景気指数、スイス6月消費者物価指数、スイス5月小売売上高、ユーロ圏5月雇用統計、2日にユーロ圏5月生産者物価指数、カナダ5月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。